

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
ユニバーサルファッション Universal Fashion		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	演習	選択	(なし)	なし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
ファッションフィールド関連科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
笹崎 綾野	福祉棟3F	授業中に指示する		授業中に指示します
授業の概要				
<p>アパレル産業では、特に若者を対象とした商品が目につき、近年では安価でデザインや機能性に着目した既製服が容易に手に入るようになった。一方で、子どもや妊婦服、高齢者や障害者に適した衣服、疾病や特殊な職業に配慮した衣服や小物など、各々の身体状況に対応した商品は少ないのが現状である。ここでは、衣生活の現状を把握した上で、対象者の状況に合った形態機能、身体・生理的機能、心理・社会的機能について知り、ユニバーサルデザインを基にした快適な衣生活について理解することを目的とする。</p>				
授業の目標				
<p>①ユニバーサルデザインについて理解できるようにする。②衣服の機能性と美しさに着目できるようにする。 ②着用者の身体特性に応じた衣服について説明できるようにする。</p>				
授業の方法				
講義形式。事例紹介、調査、グループワークを取り入れながら授業を進める。				
学習の成果(学習成果)				
<p>①ユニバーサルデザインについて知識を深めることができる。 ②多様化する生活者と彼らの衣生活の現状を知り、そこに生じる問題点を把握し、心身共に快適な衣生活の実現に向けた嗜好を育むことができる。</p>				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	オリエンテーション：15回の授業内容について説明する、ユニバーサルデザイン体験			
第2回目	ユニバーサルデザインについて(理念、建築、都市、プロダクトデザインおよび色彩等)			
第3回目	各国、各地の事例紹介(デンマーク、神戸を中心として)、調査課題「身近にあるユニバーサルデザインとその評価(PPP評価法)」			
第4回目	調査課題発表会、調査課題の提出			
第5回目	ユニバーサルファッションの概要			
第6回目	身体、環境と衣服			

第7回目	子どもと衣服	
第8回目	妊婦と衣服	
第9回目	高齢者と衣服	
第10回目	障がい者と衣服① 介助、介護服	
第11回目	障がい者と衣服② ファッションをツールとした障がい者支援の事例	
第12回目	中間まとめ、小テストと解説	
第13回目	ユニバーサルファッションの企画① 対象者、シチュエーションの選定と分析(グループワーク)	
第14回目	ユニバーサルファッションの企画② 企画書、レポート作成	
第15回目	発表会、まとめ、企画書・レポート提出	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	10%	遅刻、欠席がなく、積極的に授業に参加しているかを評価する。
レポート	20%	レポート(第15回)について、企画書の内容をふまえ、ユニバーサルファッションに関する自己の考え方が記されているかを評価する。また、期限内に提出されているかを評価に加える。
調査報告書	10%	調査課題(第4回)について、身近にあるユニバーサルデザインを取り上げ、PPP評価法に基づいて分析、考察がなされているか、図表を正しく作成できているかを評価する。期限内に提出されているかを評価に加える。
小テスト	30%	小テスト(第12回)について、授業内容(第1回～第11回)が理解できているかを評価する。
試験		
発表内容(態度含む)	10%	発表(第15回)について、内容が分かりやすく発表されているか、発表態度が適切かを評価する。
その他	20%	企画書(第15回)について、対象者やシチュエーションに応じた提案がなされているか、デザインに創意工夫がみられ斬新なアイデアが提案されているかを評価する。期限内に提出されているかを評価に加える。
教科書と参考図書		
教科書：なし(必要に応じて、プリントを配布する) 参考書：田中直人、見寺貞子著 『ユニバーサルファッション だれもが楽しめる装いのデザイン提案』 中央法規出版 中川聡 監修 『ユニバーサルデザインの教科書』 日経BP社		
履修上の留意点・ルール		
グループワークを含む為、原則、欠席・遅刻を認めない(やむをえない場合は、2/3以上の出席とする)。遅刻、忘れ物、飲食、私語、携帯電話の使用等を禁ずる。		